

2022
↓
2031

雪だるま高原

施設整備活用基本計画 概要

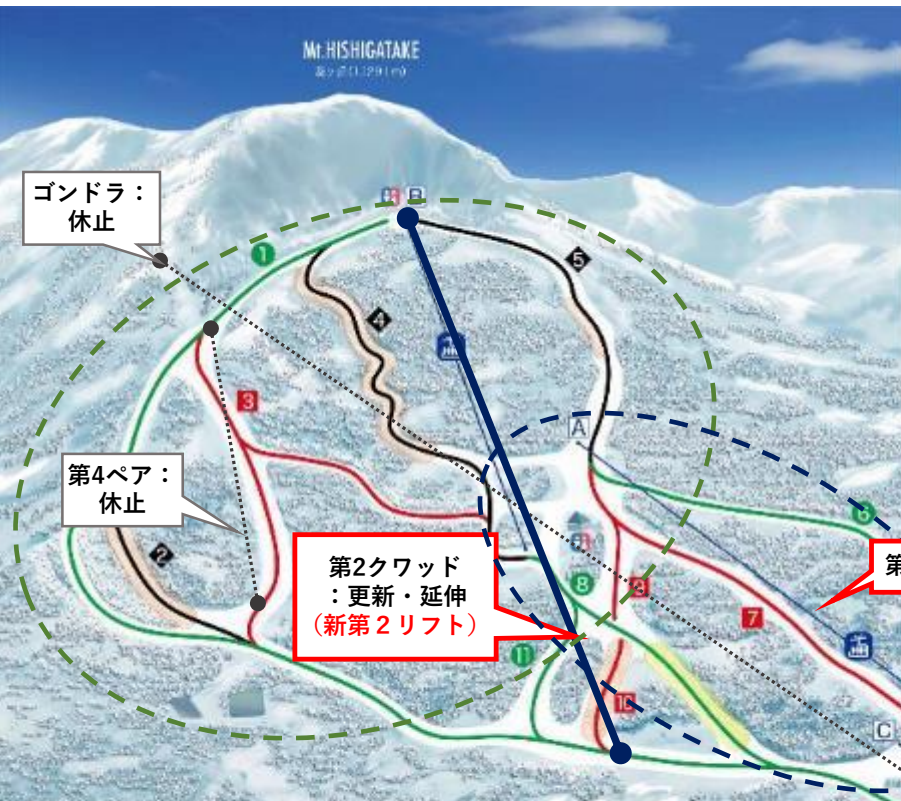


令和5年2月 上越市

計画の目的

- 日本有数の豪雪地帯であり、日本スキー発祥の地である上越市にとって、「雪」や「スキー」は、まさに風土であり、歴史や生活文化を紡いできた根本の存在である。
- 令和3年3月に策定した「上越市公の施設の適正配置計画」（令和3年度～令和12年度）においても、雪だるま高原の中核施設であるキューピットバレイスキー場は「現状維持」と位置付けられており、今後も安全で安心な利用を継続していくために、適切な維持管理と整備を行っていくこととしている。
- 一方で、開設から既に30年以上が経過し施設全般が老朽化する中で、年々上昇する整備費用と市の財政事情の見通しなどから、これまで行ってきたフルスペックの施設利用とサービス提供の在り方を見直す必要に迫られている。
- 今後の社会情勢が不透明な中であっても、長期にわたり持続可能な施設とサービスの在り方を見出して「将来計画」としてまとめ、より効率的、効果的な施設整備の方向性を整理することが、本計画の目的である。
- 計画期間 令和4年度 ～ 令和13年度 （10年間）

基本計画のポイント 雪だるま高原の将来像



3つのゾーン設定

- ① パウダーゾーン
(冒険心：若者・コア層)
- ② スタンダードゾーン
(安心感：ファミリー・学校スキー)
- ③ ワンダーゾーン
(遊び心：ファミリー・インバウンド)



目指すべき将来像

『若年層・インバウンドを開拓するスノーリゾート』

集客目標

10万人 (スキー場として成り立つ水準)

集客コンセプト

『ファミリー』『若者』『コア層』『インクルーシブ』+『インバウンド』

ゲレンデ満足度の向上

『パウダー』『スタンダード』『ワンダー』の3ゾーン設定

効率的・効果的索道整備

『第2クワッドを更新+延伸』



エリア全体の魅力度向上
『スノーリゾートを構成する
センターハウス・ビレッジ・
温泉等の計画的整備』

新第2リフトは、令和7年シーズンに登場！

第1章

雪だるま高原施設の 成り立ちと現状



キューピットバレイスキー場 平成2年12月オープン

- ▽コース
初心者から上級者向け7コース
(最長4キロのダウンヒル最大斜度32度)
- ▽リフト
ゴンドラ 1基 (6人乗り) 全長2,900m
第1クワッド (4人乗り) 全長1,600m
第2クワッド (4人乗り) 全長1,000m
第3ペア (2人乗り) 全長500m
第4ペア (2人乗り) 全長700m
※ゴンドラ・第4ペアは休止中
- ▽センターハウス

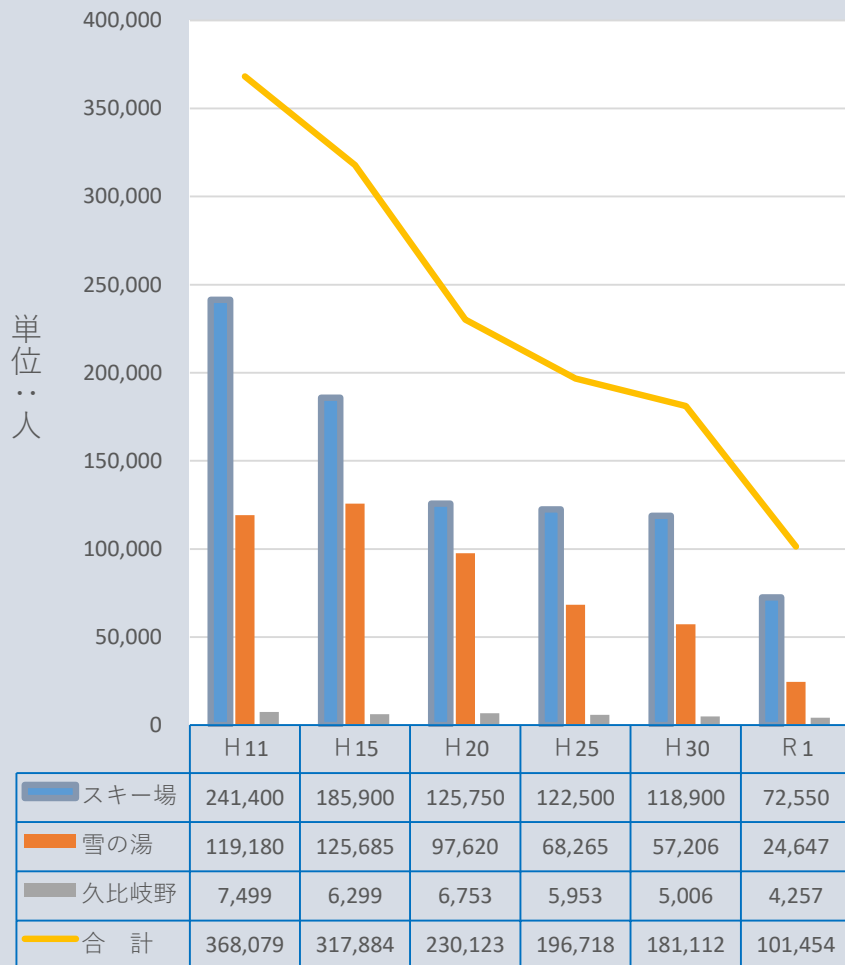
宿泊施設・温泉など

- ▽キューピットビレッジ
19棟50室 ログハウスのホテル
- ▽ゆきだるま温泉 平成4年オープン
久比岐野 (宿泊・日帰り)
雪の湯 (廃止)
- ▽棚田動植物公園 キャンプ場

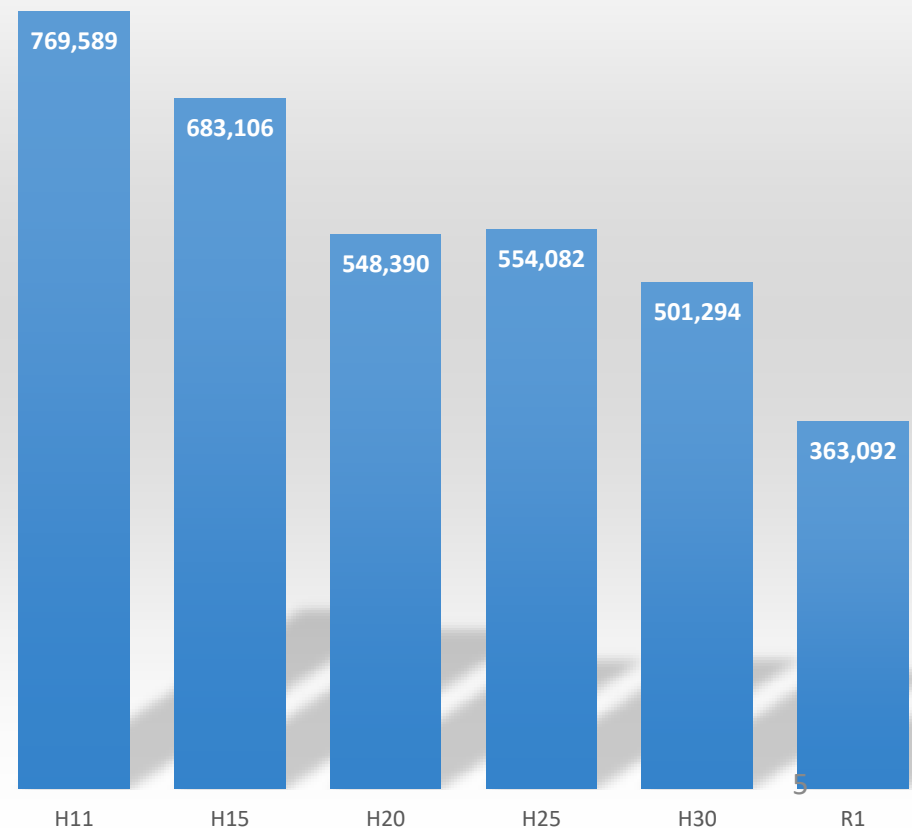
利用状況と売上総額の推移

年間利用者数は、ピークから5割減少。（R1は除く） 売上規模は、ピークから3割以上減少。

雪だるま高原施設 利用状況



売上総額 (単位：千円)



雪だるま高原施設 活用の方向性

上越市公の施設の適正配置計画（令和2年度策定）による位置づけ



キューピットバレイスキー場は「継続すべき施設」

施設名	施設 カテゴリー	今後の 方向性	説明	完了 年度
キューピットバレイ スキー場	観光施設	現状維持		—
ゆきだるま温泉 雪の湯	日帰り温浴 施設	廃止	施設全般に老朽化が激しく、 隣接する「久比岐野」に日帰 り温浴機能を集約し廃止する	令和 3年度
菱ヶ岳グリーン パーク	キャンプ場	廃止	棚田動植物公園のキャンプ場 で代替する	令和 3年度

上越市公の施設の長寿命化計画（基本方針）



計画的な維持管理・予防保全によるトータルコストの縮減

索道施設 ⇒ 更新時期を見据えた マスタープランが必要

キューピットゴンドラ（ネージュ）

1990年（平成2年）建設。令和2年シーズン休止

スキー場の
シンボル
3,000m

施設の維持・更新には非常に大きな費用が見込まれる。

第1クワッドリフト

1990年（平成2年）建設。主要設備を更新済み

メイン
高速リフト
1,600m

第2クワッドリフト

1990年（平成2年）建設。更新判断時期
(直近で大規模改修必要)

上部エリア
高速リフト
1,000m

第3ペアリフト

ベースエリア 500m

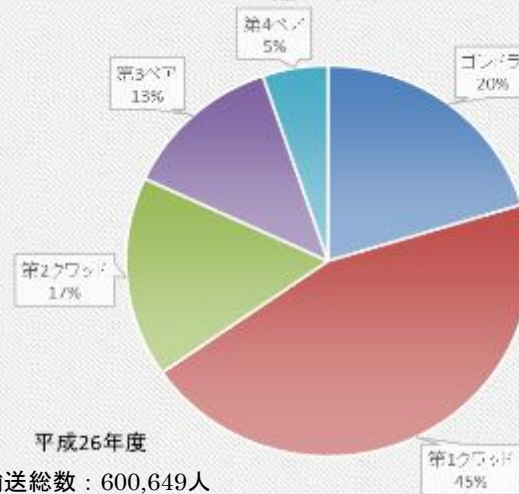
第4ペアリフト

上部エリア 700m

1995年（平成7年）建設。

※ 固定リフト。整備費は、ゴンドラ・高速リフトより低廉
利用率低迷のため、第4ペアは休止中

リフト別輸送実績(人)



平成26年度
輸送総数：600,649人



雪だるま高原の中長期戦略目標

若者・インバウンドを獲得する『スノーリゾート』

- 「日本のスキー発祥の地」から発信する
スキーやスノーボードだけでなく「誰でも雪を楽しめる」
新しいスノーリゾートスタイルの実現

- ・最大の資源は豊富な天然雪
- ・持続的安定経営に索道施設の適正配置が必須
- ・安心感と冒険心を満たすバックカントリー
- ・スキー・スノーボード人口から「スノーリゾート人口」の拡大へ
- ・「誰でも雪は楽しめる」ユニバーサルフィールドの実現
- ・施設の魅力と地域資源をフル活用してインバウンド受入れの基盤を強化



← 障がい者スキー
(インクルーシブ野外活動)
↓キューピットビレッジ



第3章

利用拡大に向けた戦略展開と 集客目標の設定

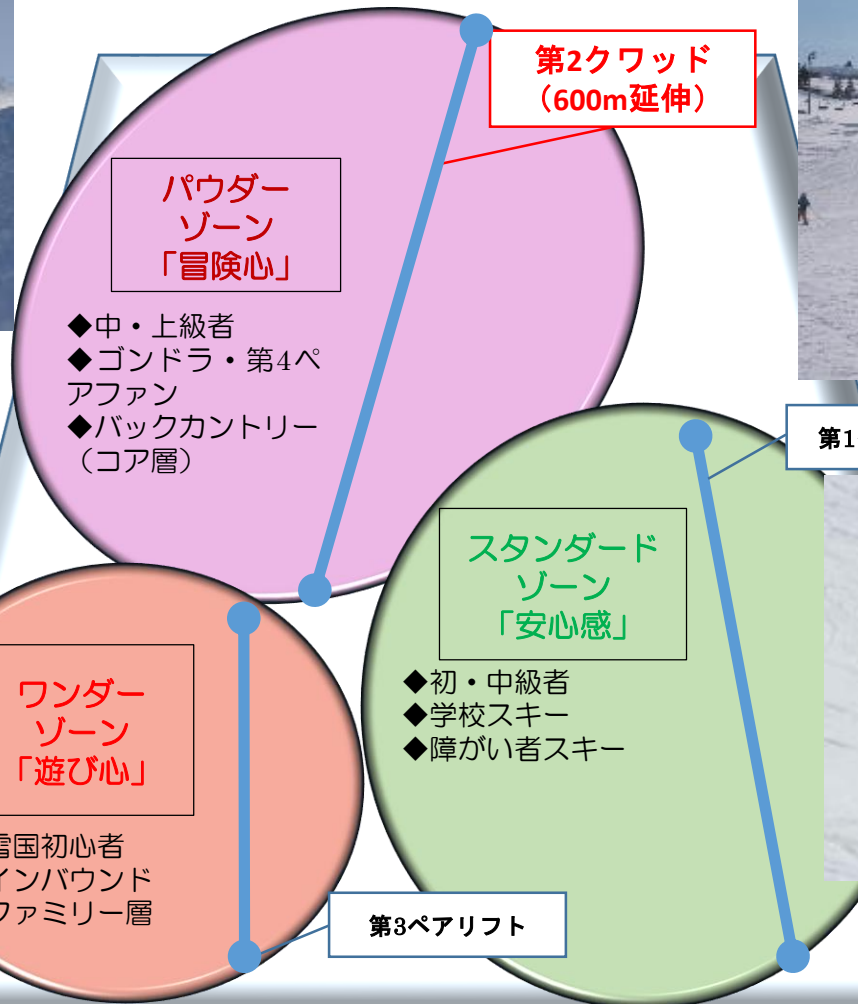
ゲレンデ満足度の向上を図るゾーニング・効率的な索道施設等の整備



パウダーゾーン



大人のそり遊び



センターゲレンデ

第1クウッド



障がい者スキーの提案

集客数及び売上目標設定

現状

選択肢

スキー場集客エリア

・客層への影響

スキー場集客目標

への影響

来場者数
60,000人

- リフト運行
- ・第1クワッド
- ・第2クワッド
- ・第3ペア
- ▲ Gondola運休
⇒2万人減
- ▲ 第4ペア運休
⇒1万人減
- ▲ シーズン会員
2,800人⇒1,170人
- 市内・近隣市町村から大部分集客

①プラン 第2クワッドを
更新・延伸する。

若者・インバウンド獲得

②プラン 第4ペアリフト
を再開する。

4ペアファンの復活

③プラン 現状の3本のリ
フトのまま。

市民・近隣重視

【客層】

パウダー愛好者層の拡大

【エリア】

北陸・関東圏・インバウンド

【客層】

第4ペアファンの復活。

【エリア】

県内

【客層】

ファミリー層中心

【エリア】

上越市・柏崎市

10万人に復活

○延伸効果 25,000人

○リブランド効果 7,000人

○多角化による効果8,000人

7万人強で頭打ち

○バックカントリー 5,000人

○多角化による効果 8,000人

▲シーズン会員減影響 5,000人

7万人に届かず、現状維持

○多角化による効果 5,500人

○外部要因 8,000人

▲シーズン会員減影響 6,500人

第4章

施設区分別整備計画

索道計画



ゴンドラ ネージュ

○シンボリックであるが、整備・運行コストが大きい
「ゴンドラ・ネージュ」



【ゴンドラを休止。その影響は】

- 輸送能力とコース利便性の低下
- 中上級者の第1クウッドへの乗車集中による混雑の発生
- シーズン会員の減少

エリア集客減少 2万人



令和3年3月の日曜日
第1クウッドにリフト待ちの
長蛇の列が発生した

○ゴンドラなしでも
少ないリフトで
多くのコースに
アクセス。
効率的で満足度の
高い索道配置へ



- 第2クウッドを
ソレイユコース接続
まで延伸することで
コースレイアウトが
大きく改善

GELANDE MAP



第2クワッド架け替え プラス600m延伸の効果

●輸送能力を生かしたゲレンデレイアウトの実現



延伸後の
第2クワッドと
第1クワッドの
滑走可能エリア

ゴンドラを再開しなくても、第1クワッドとの組合せにより理想とされる4コース分/1索道に近いゲレンデレイアウトが実現する

総滑走距離 = 24,520m

○ゲレンデ上部と下部でゾーニング可能

- ・ゴンドラ利用者層を第1・第2クワッドでカバー
- ・第4ペアリフトを再開しなくてもパウダーゾーン愛好者をカバー

⇒索道運行コストの軽減とゲレンデ魅力度の向上を両立

集客目標 10万人

新第2リフト建設事業の概要

ゴンドラ・第4ペアを休止 ⇒ 第2クワッド更新+延伸でカバー

- 効果**
- ①ダウンサイジング・運行コストの軽減（現状リフト5本 ⇒ 3本）
 - ②維持・管理費の軽減（既存第2クワッドは、部品等に汎用性が無く維持費が割高。経年劣化により、施設全体の大規模改修が必要）
 - ③ゲレンデの利便性・効率性と魅力度の向上
 - ④市財政負担の軽減（過疎債活用等による一般財源の圧縮）

新第2リフトの主な仕様

リフト長	1,600m（現状は1,000m）
索道種類	特殊索道（ゴンドラは普通索道）
索道方式	単線自動循環式高速リフト
搬器定員	4人以上（現状は4人）
事業費（概算）	15億3,450万円（税込） （事業費全体に過疎債を充当）
工事期間	3年（R5～R7）



宿泊施設（ビレッジ・久比岐野） センターハウスほか付帯施設の整備

キューピットビレッジ



夏季のグランピング・バンガロー（中期）など利用方法と室（棟）数の見直し。



センターハウス・レストラン



ゆきだるま温泉 久比岐野



日帰り入浴対応のため、令和2年度に整備された新館浴室

多彩なメンバーによる 計画検討委員会

委員長 : 飯塚 徹
副委員長 : 後藤 幸泰
委員 : 石川 俊哉
: 白倉 文三
: 八木 達也
: 小田 基史
: 上羽 亮

松本大学松商短期大学部経営情報学科 教授

北陸信越山岳観光索道協会新潟地区部会副部会長

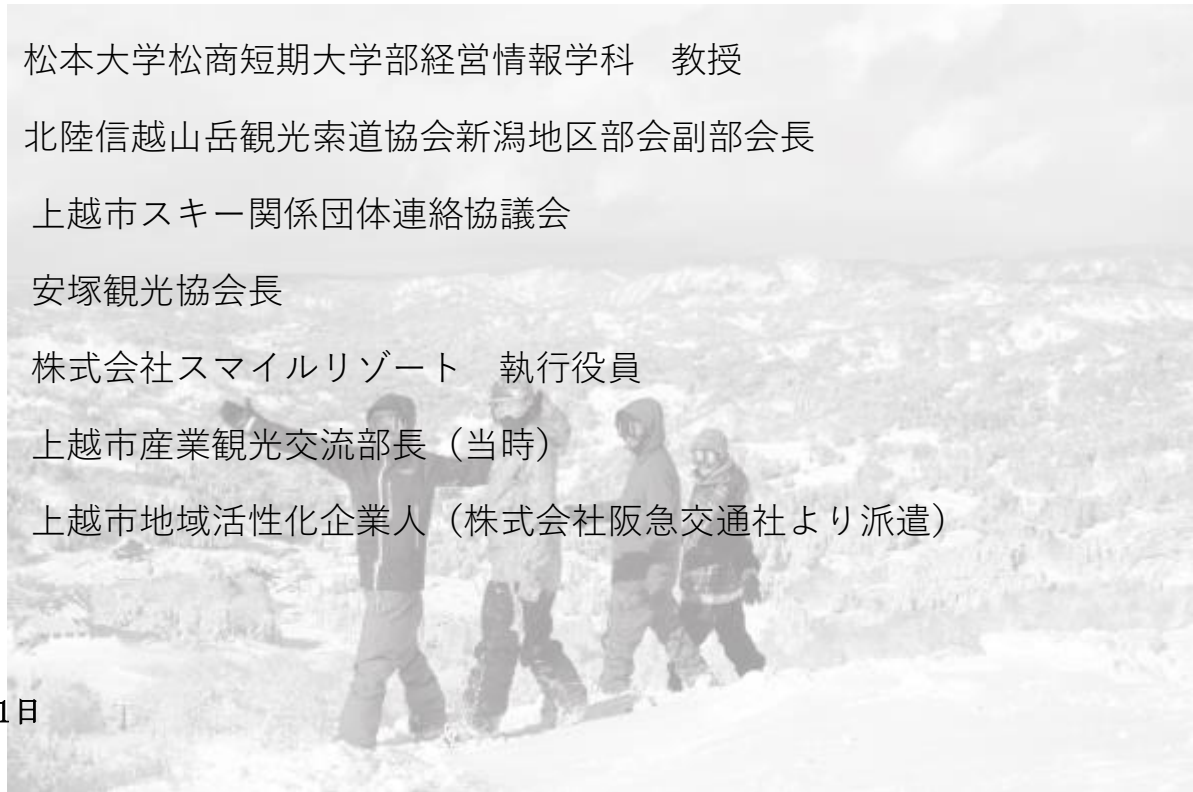
上越市スキー関係団体連絡協議会

安塚観光協会会長

株式会社スマイルリゾート 執行役員

上越市産業観光交流部長（当時）

上越市地域活性化企業人（株式会社阪急交通社より派遣）



任 期 令和3年12月21日～令和4年3月31日

〈会議開催〉

第1回委員会 令和3年12月21日（火）

第2回委員会 令和4年 1月26日（水）

第3回委員会 書面確認